

【避難所を知っているか？】

語り部や全国各地で行う講演でどんな話をするのか、少し教えてもらった。講演会の終盤で、皆さんにこう問いかけるそうだ。

「自分たちの指定避難所を知っていますか？」

「自分たちの指定避難所に行ったことがありますか？」

「自分たちの指定避難所にどのような備蓄があるか知っていますか？」

…恥ずかしながら、ひとつめはなんとか、という程度。言い訳になるが、転居を伴う異動が多い職場では、引越しの都度最寄りの避難所を確認することを怠りがちになる。しかし、こうして改めて問われると「怠りがち」では済まされないことだと気づかされる。実際、令和元年の台風19号では現在の居住地にも避難勧告や避難指示が発表されており、災害が『他人事』でないことは明らかだ。

前出の3つの問いかけは、東日本大震災津波での釘子明氏自身の経験を踏まえて出されたものだ。詳しくは、釘子明氏の語り部を直接聴いていただきたいが、避難所に指定されている場所が本当に安全なのか、行政が指定する場所だから大丈夫だろうと安易に考えていないか、が問われている。震災では指定避難所を津波が襲った事例があるし、令和元年の台風19号でも避難所が浸水した事例が報告されている。

避難所の備蓄についても考えてみたい。まずは「水と食料」が十分にあるか。また、避難所生活で重要とされるのが「トイレ」「通信設備」「ベッド」「キッチン」「予備電源」と言われている。自分たちの指定避難所がこれらを備えているかを確認し、不足があるなら行政と相談して少しずつでも充実させよう。誰の身にもいつか必ず訪れる「その日」に備えて。



早稲田大学大隈講堂での、中学生への防災講演活動